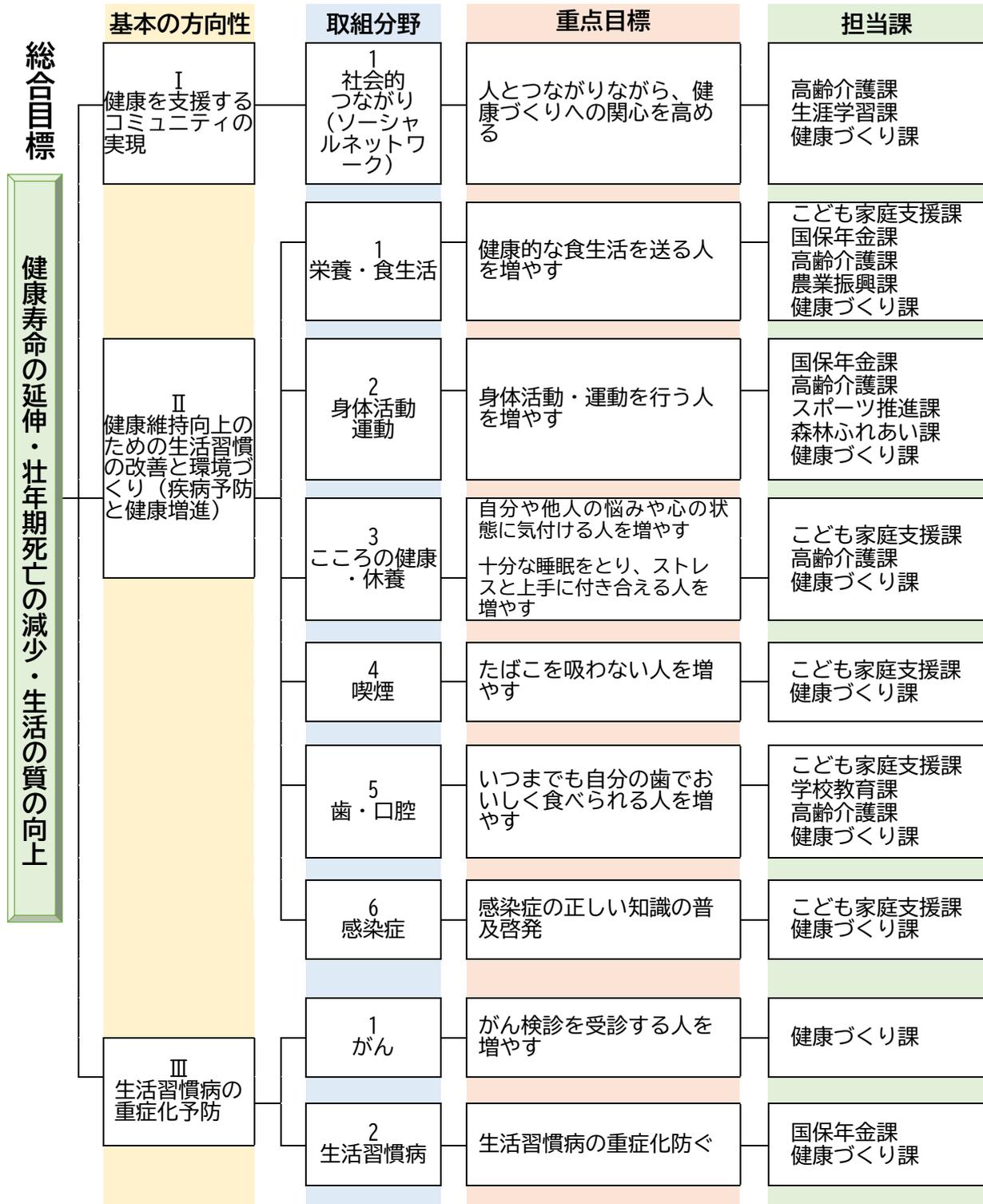


第3章 前計画の評価

第3章 前計画の評価

Ⅰ 第4期計画の体系

第4期計画では、3つの基本の方向性と9つの取組分野における重点目標に基づき、関係課や市民活動団体で構成する「健康増進計画事業推進協議会」を中心に推進活動を行いました。



2 達成状況

第4期計画における令和4年度までの達成状況は次のとおりです。

重点施策	重点施策の指標		基準年度 (H29年度)	評価年度 (R4年度)	目標値	達成率 (%)※1	
I-1 社会的つながり（ソーシャルネットワーク）	健康に気を付けている人の増加（20～64歳）		82.2%	87.1%	85.0%	102.4%	
	地域活動参加の割合の増加（65歳）		63.0%	64.7%	80.0%	80.8%	
II-1 栄養・食生活	朝食を週4日以上食べる人の割合（朝食欠食率の減少 40～59歳）		82.4%	77.8%	85.0%	91.5%	
	主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（毎食）		51.6%	41.5%※2	55.0%	75.0%	
	野菜を毎食食べる人の増加		38.5%	41.0%※3	45.0%	91.0%	
II-2 身体活動・運動	適正体重を維持する人の割合（BMI18.5～25未満の者）の増加（40～74歳）	男性	69.4%	66.3%	71.0%	93.3%	
		女性	69.9%	67.2%	72.0%	93.3%	
	日常生活において1時間以上歩行と同等の活動を行っている人の割合（40～74歳）	40～64歳	男性	48.8%	48.2%	54.0%	89.2%
			女性	51.6%	51.3%	56.0%	91.6%
		65～74歳	男性	57.5%	50.9%	62.0%	82.0%
			女性	53.1%	55.3%	58.0%	95.3%
	運動習慣がある人の割合	40～64歳	男性	35.4%	34.2%	40.0%	85.5%
			女性	33.5%	31.5%	38.0%	82.9%
		65～74歳	男性	56.5%	49.3%	60.0%	82.1%
			女性	50.1%	47.1%	55.0%	85.6%
	II-3 こころの健康・休養	ゲートキーパー（自分と人の状態に気付ける人）の増加		633人	1,714人	1,000人	171.0%
		ストレスに対処できる人の増加		50.0%	66.0%	55.0%	120.0%
睡眠で休養が十分にとれていると感じる人の増加		77.0%	74.2%	80.0%	92.8%		

重点施策	重点施策の指標	基準年度 (H29年度)	評価年度 (R4年度)	目標値	達成率 (%)※1	
Ⅱ-4 喫煙	非喫煙者の増加	男性	79.6%	80.3%	82.0%	97.9%
		女性	94.8%	94.5%	96.0%	98.4%
	市内小中学校での健康づくり課が講師を務める喫煙防止教育回数の増加	3校	3校	全校 (22校)	13.6%	
	1歳6か月児健診時の父と母の非喫煙者の増加	父親	65.2%	71.4%	70.0%	102.0%
母親		94%	93.9%	95.0%	98.8%	
Ⅱ-5 歯・口腔	3歳6か月児歯科健診におけるむし歯がない幼児の増加	85.5%	91.1%	86.0%	105.9%	
	年に1度以上、歯科検診を受けている人の増加	33.9%	48.9%	45.0%	108.6%	
	補助的清掃用具の使用について普及啓発をすることで、口腔内のセルフケアをしている人の増加	54.1%	31.9%	65.0%	49.1%	
	80歳(75~84歳)で20本以上自分の歯を有する人の増加	38.1%	32.6%	50.0%	65.2%	
Ⅱ-6 感染症	感染症に関する注意報、警報等の情報提供	100%	100%	100%	100%	
	高齢者インフルエンザ予防接種の接種率の向上	43.2%	52.0%	48.0%	108.3%	
	新型インフルエンザ等対応訓練の実施	年1回	—	年1回	—	
Ⅲ-1 がん	子宮頸がん(20~69歳)検診受診率の向上	12.6%	10.0%	50.0%	20.0%	
	乳がん(40~69歳)検診受診率の向上	17.8%	16.2%	50.0%	32.4%	
	大腸がん(40~69歳)検診受診率の向上	8.1%	5.9%	50.0%	11.8%	
	精密検査受診率(大腸)の向上	70.8% (H28年度)	82.4% (R3年度)	90.0%	91.6%	
Ⅲ-2 生活習慣病	特定健康診査受診率の向上	33.8%	31.6% (R3年度)	40.0%	79.0%	
	特定保健指導修了者割合の増加	18.5%	18.5% (R3年度)	26.0%	71.2%	
	特定保健指導対象者割合の減少	9.8%	9.5% (R3年度)	8.5%	111.8%	

※1 <達成率(%)>の算出方法> 現状値÷目標値×100 (%)

※2 特定健診質問票(策定時は市民健康診査質問票)

※3 R4健康状況調査(青壮年期及び高齢期)(策定時は市民健康診査質問票)

3 評価結果及び課題

第4期計画の推進状況と効果について、秦野市健康増進計画検討委員会において全体評価を行い、評価結果及び課題については次のとおりでした。

評価基準一覧

評価区分	評価内容
A	推進できた
B	概ね推進できた
C	推進できたが努力が必要
D	推進できなかった
E	事業の見直しや改善が必要

取組分野	第4期計画全体評価及び今後の方向性
Ⅰ-Ⅰ (社会的つながりネットワーク)	<p>[第4期計画評価] A</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症下において、安全で必要な運動交流をする方策をとり、さわやか体操は介護予防事業や通いの場で行いました。また、非接触での交流を進める方策として、オンラインやICTを活用した新しい方法での健康づくりを実施しました。 ・ 身近な地域での健康支援として、民営の未病センターを増設し、定期的な健康相談会・セミナーの開催をしました。 <p>〈要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場においてハイブリッド形式での実施を期待します。 ・ 協働事業では、実施可能な形式での継続実施を期待します。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民一人ひとりが積極的に社会参加しつつ、地域社会とのつながりを持ちながら健康づくりに取り組むことが重要です。
Ⅱ-Ⅰ 栄養・食生活	<p>[第4期計画評価] A</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSやYouTubeなどのソーシャルメディアを活用し、若い世代向けの周知など、年代に合わせた食育事業を展開し、健康づくりのための「食」への関心を高めました。 ・ 農産分野と連携し、生産者との交流体験等、効果的な地産地消の推進を行いました。 ・ 高齢者の低栄養予防を重点事業とし、総合的な介護予防事業を実施しました。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困と食生活という視点をもつ必要があります。 ・ 教育分野と連携し、若い世代への肥満予防や朝食欠食率へのアプローチが必要です。

<p>Ⅱ-1</p> <p>栄養・食生活</p>	<p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正体重を維持することの健康効果と、そのための食習慣について、情報提供と環境整備を進めていく必要があります。 ・切れ目のない食育を推進するために食育推進計画と整合性を持たせながら、関係機関やボランティア団体等と連携し、様々なライフステージに適応した施策を進めていくことが重要です。
<p>Ⅱ-2</p> <p>身体活動・運動</p>	<p>[第4期計画評価] A</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でできる運動として、スポーツ推進課と協働して、ウォーキングガイドを作成・配布し、個人でできる健康づくりを普及啓発しました。 ・幼稚園・小中学校のPTA事業や民間企業と連携し、働き世代や子育て世代の青壮年期をターゲットに、個人だけではなく、家族全体の健康づくりを啓発しました。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が楽しみながら、身体活動や運動を日常生活に取り入れられる仕組みづくりが必要です。 ・働き世代に対する健康づくり支援として、職域連携などの取組が必要です。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もがいつでも、運動に関する正しい知識を得られるよう、適切な情報提供と環境づくりを行う必要があります。 ・個人のライフスタイルに合う身体活動や運動について、方法を選択できるように、情報提供を行う必要があります。
<p>Ⅱ-3</p> <p>こころの健康・休養</p>	<p>[第4期計画評価] A</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的なつながりが取りづらい中、ストレスマネジメントにおけるセルフケアの知識と方法など、必要な情報を届けるため、こころの健康情報やQRコードを添付したカードを配布するなど、若い世代をターゲットにした啓発を行い、こころの健康づくりを推進しました。 ・ゲートキーパーや認知症サポーターを養成し、こころの健康や認知症についての正しい知識をもち、適切な対応ができる人材の育成と環境づくりを推進しました。 ・産後の母親や介護者への相談等を実施し、相談しやすい体制づくりを図りました。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県が広域的に取り組んでいるSNS等を活用した取組の周知が必要です。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図りながら、こころの健康を保持増進させる取組や人材育成を推進していくことが重要です。

<p>II-4 喫煙</p>	<p>[第4期計画評価] B</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙防止教育を通じて、児童生徒が喫煙による健康への影響についての正しい知識を持ち、生涯にわたる健康づくり支援を行いました。 ・個別健康教育では、希望者に対して実践支援を行い、行動変容を促すことができました。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育部門や職域と連携を図り、若い世代や働く世代への取組が必要です。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代や働く世代に対して、たばこの依存性や健康への影響についての正しい理解を広げるため、教育部門や職域と連携した働きかけが必要です。
<p>II-5 歯・口腔</p>	<p>[第4期計画評価] B</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年代に合わせた歯科口腔保健事業の実施により、効果的な普及啓発が進みました。 <p>〈要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーラルフレイルに関して継続的な取組を期待します。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携しながら、オーラルフレイルに関する普及啓発を行い、各種健（検）診の受診率の向上を図る必要があります。
<p>II-6 感染症</p>	<p>[第4期計画評価] B</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者インフルエンザ予防接種や乳幼児の定期予防接種を行い、予防接種ができる感染症について対策を進めました。 ・新型感染症を含め、感染症の流行について、適宜、情報提供を行いました。 ・感染症に関する正しい知識の啓発と適切な感染予防行動について情報提供を行いました。 <p>〈要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者肺炎球菌ワクチンの予防接種については、職域と連携した普及啓発を期待します。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接種対象者に対して、積極的に接種勧奨を行う必要があります。 ・感染症に関する正しい知識の周知を推進する必要があります。
<p>III-1 がん</p>	<p>[第4期計画評価] A</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診において、登録期間を通年に延長し、希望者がいつでも受診できる環境整備を図りました。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の受診率を向上させるための、さらなる取組が必要です。 <p>[第5期計画の方向性]</p>

Ⅲ-1 が ん	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携しながら、若い世代や女性が健(検)診を受けやすいよう、体制づくりを進め、受診率の向上を図る必要があります。
Ⅲ-2 生 活 習 慣 病	<p>[第4期計画評価] B</p> <p>〈効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査は、新型感染症下においても受診勧奨を継続し、受診率は減少傾向から増加傾向に転じています。 ・健康ポイントプログラムの実施を行い、市民が健康づくりの取組をする機会を提供しました。 <p>〈要望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く世代への受診勧奨について、職域との連携の強化に期待する。 ・巡回型健康測定事業の拡大を期待する。 <p>[第5期計画の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の重症化予防に取り組み、健康寿命の延伸を図る必要があります。